

大阪支部

映像監視システムビジネスの現状と未来 ～動画圧縮技術による次世代デジタルビデオネットワーク監視システムを活用した 新規ビジネスの調査・研究～

国外における大規模な犯罪だけでなく、国内においても身近なところで、これまでとは異なる種類の犯罪が増えている。

社会において、ビジネスにおいて、そして個人において、より安全な社会、より安心な生活を求める傾向があり、その解の1つとして、映像監視に対するニーズが高まっている。

本調査・研究では、動画圧縮技術による次世代デジタルビデオネットワーク監視システムを調査対象とし、今後の中小企業のビジネス展開の可能性について述べている。

まず、第1章では、国内で映像監視システムの活用が進んでいる背景を、犯罪件数の増加や安全・安心な暮らしへの期待の高まり、情報インフラの低コスト化・高速化等の観点から述べている。また、商店街やマンション、金融機関等の防犯、工場や病院、学校内等の監視、小売店舗における商品陳列状況の遠隔モニタリングやビデオ会議（テレビ会議）用といった、多様な用途について簡単に触れ、ビジネスとしての遠隔映像システムの拡がりについて述べている。

次に、第2章では、映像監視システムを提供する大手電機メーカーだけでなく、独自の動画圧縮技術を活用して市場を開拓している中小企業等、計7箇所のメーカーやサプライヤーに対するヒアリング結果、および、マンションや新興住宅地、電鉄会社、学校、保育所等、計7箇所のユーザーに対するヒアリング結果を、ヒアリング先ごとに紹介している。

そして、第3章では、映像監視システムに関する市場を、「監視市場」「看視市場」「観視市場」といった独自の用語で3つにセグメントし、「見張る」「見守る」「見せる」といった観点で、第2章のヒアリング結果を再考している。さらに、映像監視システム関連ビジネスの推進上の課題として、画像品質や通信回線、セキュリティといった技術上の課題と、映像監視システムの導入および運用に際して留意すべき課題についてまとめた。「見張る」「見守る」「見せる」の順に市場への導入が進んできており、今後は、「見張る」市場以上に、「見守る」市場が、さらに「見せる」市場の潜在需要が大きいと考えている。また、河川や繁華街、踏切、公園といった公的、社会的な場所における映像情報への需要「ソーシャル・ニーズ」、生産工場や小売店舗、会議室といったビジネスの現場における映像情報への需要「ビジネス・ニーズ」、個人住宅の入り口や室内のペットの様子、学童通学路といった個人的な場所における映像情報への需要「パーソナル・ニーズ」、これら3つのニーズと、「見張る」「見守る」「見せる」との関係や動向について考察を加えた。

最後に、第4章では、よりユーザーに密着した映像監視システムの提供や、地域のコーディネーターといった参入者として、また、手軽な監視ツールや、企業間のネットワークの強化といった利用者としての中小企業におけるビジネスの可能性を挙げた。